

きれいな紅色「露茜」の作付けを推進



参考商品

市が、耕作放棄地の解消と、市の将来的な特産となるような作物として昨年から推奨している梅「露茜」(つゆあかね)市では、今年も新作物として苗木の補助を行っています。

市内で推奨を始めた苗は、およそ3年後に実がなり始めるでしょう。県西地区では、すでに実が加工され、独特のきれいな紅色の梅酒が出来上がりました。耕作放棄地解消の一つの手段として、作付けにご協力ください。

特別職報酬などで懇談

11月 7日



「特別職報酬や議員定数等のあり方を市民みんなで考えよう」をテーマに、市民懇談会を開催しました。

懇談会には、63人の参加があり、現職議員や市民代表者などからの意見発表を受け、活発な意見交換がされました。

市遺族会がフィリピン戦跡慰霊巡拝

11月 12~16日



ミンダナオ島ダバオのミンタル日本人墓地にて慰霊祭を行う遺族会の参列者

数多の尊き命が失われた先の大戦から、65年の月日が過ぎ去りましたが、未だ120万余もの御柱が祖国日本へ帰ることができず、遠い異国の地に眠っています。

このほど、かすみがうら市遺族会による、海外戦跡慰霊巡拝が実施されました。巡拝は、一年おきに行われており、今回は、市遺族会会長を団長に15人が参列し、先の大戦で激戦地となり約52万人が戦死したとされるフィリピン地域のルソン島、ミンダナオ島の各地を巡拝、日本人墓地などで慰霊祭を挙行了しました。

参列者は、現地の気候や環境などの変化に戸惑いながらも、一致団結して異国の地に眠る御霊に対して、慰霊の誠を捧げていました。

板橋区のアンテナショップで特産品の販売を開始

11月 19日



▲大山商店街のイベント広場で特産品を紹介するアントキの猪木さん、石塚前板橋区長、坂本板橋区長、宮嶋市長(左から) ▲アンテナショップのある大山商店街の様子

かすみがうら市では、東京都板橋区大山商店街が運営するアンテナショップ「全国ふる里ふれあいショップ・とれたて村」に11月から参加することになりました。とれたて村は、同区と交流のある自治体が地元の特産品を持ち寄って販売しており、当市は13番目の「ふる里」になります。

18日と19日には、初参加を記念したイベントを開催。生鮮野菜の即売やブルーベリー加工品の試食などを実施したほか、板橋区の坂本区長や当市のふるさと大使が駆けつけ、1日5万人の買い物客が訪れる商店街で市の魅力を大いにPRしました。

第10回霞ヶ浦帆引き船フォトコンテスト 2010 入賞作品介绍

いまなお新鮮さ際立つかすみがうらの風物詩

審査員特別賞／霞ヶ浦河川事務所長賞



「帆引船夕景」大野 剛さん (土浦市)

最優秀賞／教育長賞・コカコーラ賞 (小中学生部門)



「夏の思い出に…」
鈴木 悠花さん (南中学校)

最優秀賞／市長賞 (風景の部)



「夜明け」加瀬 雅俊さん (深谷)

市観光協会長賞 (帆引き船の部)



「初漁の日」中嶋 昭さん (石岡市)

優秀賞・市議会議長賞



「帆引船雲」平 堅次さん (土浦市)

霞ヶ浦漁業協同組合かすみがうら市支部長賞



「湖山の風詩」植竹 みとりさん (下妻市)

かすみがうら市商工会長賞



「疾風」荒 明良さん (阿見町)

市観光協会長賞 (風景の部)



「帆引船出航」齊藤 心伸さん (坂)

審査員講評

立木寛彦さん

(社)日本写真家協会会員
日本旅行写真家協会発起人理事

大海原に優勢かつ美しく、満帆となびく帆引き船の姿は重要な文化的遺産と認知されている。この遺産を継承しようとする意欲が、今年10年目の節目を迎え、今は全国に広く知れ渡るようになった。写真の向上とテクニックが素晴らしい入賞者の作品は甲乙つけ難く、写真業界でも水準が高いと評価されている。また、皆さまの素晴らしい作品をお待ちしています。

沓掛博光さん

(飛行)ヤナリスト 筑波学院大学講師

今年は昨年を上回る応募数があり、審査員として、うれしい悲鳴でした。湖と帆引き船と筑波山を代表とする周囲の山々の3点を被写体にした写真は撮影者の意図が求められます。上位入賞者の作品にはそれを強く感じました。

水島敏夫さん

(株)旅行誌出版 代表取締役社長

作品には、地域の豊かさや幸福感、充足感にしみ出ていました。ここに伝わる「わたしの池」という民話通り、豊饒な土地を写す伸びやかな作品をこれからも期待します。小学生諸君、来年も、ふるさつを見る新たな視点を大人に気付かせてください。